17世紀の防災と治水

成富兵庫茂安と寺沢広高の防災・治水事業

人間の力は自然の力に及びませんが、少しでも災害を減らし、人々の暮らしが安定するように、知恵をしぼって取り組んだ先人たちがいました。

調べてみよう
成富と寺沢の治水事業はのちの世にどのような影響を与えたんだろう？

千栗土居公園 千栗土居を後世に伝えるため、現在は本来の姿を200mほど残して公園として整備されています。（川副義敦氏提供）

（さが水ものがたり館提供）

成富君水功之碑
石井樋公園内にあります。題字は、佐賀県出身の副島種臣が書いたものです。

佐賀平野の基礎を築いた「治水・利水の神様」

江戸時代初期に佐賀藩で治水事業を手がけた人物に**成富兵庫茂安**（なりどみひょうごしげやす）がいます。茂安は、佐賀藩初代藩主**鍋島勝茂**（なべしまかつしげ）の重臣として、水害の防止、新田開発、堤防工事、灌漑（かんがい）工事、上水道建設などによる藩内の開発にあたることになります。関ヶ原の戦いの後、徳川幕府成立によって戦乱の世が終わると、全国各地の大名たちは領地が確定保証されたことで、領内の開発に力を注ぐようになりました。

鍋島勝茂が藩主となった当時の佐賀平野は、アシの生い茂る原野も多くありました。河川は大雨が降ると氾濫し、短時間で流れが変わるような状態でした。とくに、**「筑紫次郎」**（つくしじろう）の異名をもつ筑後川（ちくごがわ）は、たびたび洪水を起こし、領民に大きな被害を及ぼしていました。そこで、まず茂

安は、12年の歳月をかけて筑後川の堤防を高くし、氾濫したときには洪水の激流を和らげるために竹や杉を植林する治水事業を手がけます。これは**「千栗土居」**と呼ばれる堤防で、現在のみやき町千栗地区から坂口地区にかけて、およそ12kmにわたって築かれました。

また、佐賀藩を豊かにするために原野を水田に変えることも大きな課題でした。そこで、脊振山地の蛤岳中腹に水路**「蛤水道」**を築き、平野に多くの水が流れる利水事業を行いました。

嘉瀬川に**「石井樋」**と呼ばれる堰を築き、嘉瀬川の水を多布施川を通じて佐賀城下に送ることができるようにしました。「石井樋」には、川水の土砂を「象の鼻」、「天狗の鼻」などと呼ばれる石造りの施設で沈殿させて、きれいな水を下流に送る工夫がされています。

さらに、石井樋より上流の水を市の江川を経由して巨勢川に導き、新田の開発を進めました。現在も巨勢川流域に「兵庫町」という地名が残っていることから、成富の功績をうかがうことができます。

このように、現在の佐賀平野の穀倉地帯の基礎を築いたほか、馬頭(伊万里市)や羽佐間水道(多久市)なども茂安が携わった事業として伝えられ、「治水の神様」「利水の神様」と呼ばれています。

松浦川大工事と新田開発を実現した唐津藩

唐津藩の初代藩主**寺沢広高**は、尾張(現在の愛知県)の生まれで、豊臣秀吉に仕え、唐津領主となりました。関ヶ原の戦いでは東軍に参加しました。

石井樋公園　園内には、大井手堰、象の鼻、天狗の鼻などがあり、石積みも数多く残っています。左手の川は嘉瀬川本流です。

(佐賀市観光協会提供)

COLUMN
加藤清正と成富兵庫茂安

1600(慶長5)年、肥後一国の領主となった加藤清正は、治水・水利事業に手腕を発揮する成富兵庫茂安を1万石で召し抱えようとしました。しかし、茂安は鍋島勝茂への忠義を貫き「たとえ肥後一国を賜るとも応じがたく候」と断ったという逸話が残されています。

(株式会社談提供)
加藤清正像

COLUMN
倹約家だった寺沢広高

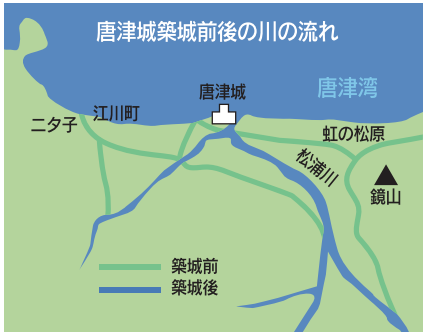
丘陵地の多い唐津藩では水田が少なく、畑地に適した麦がよく収穫できたことから、寺沢は田植え前の５月と６月は藩士たちとともに麦飯を食べていたと伝えられています。また、夫人とともに木綿の衣服を着て、塩魚や干物などの質素な食事を好んだと言われています。

（佐賀県教育委員会提供）
寺沢広高の墓
（唐津市鏡神社の一角）

COLUMN
虹の松原にまつわる言い伝え

海岸近くなのに塩分を含まない真水が出る井戸があるといわれます

虹の松原・クロマツの林　（佐賀県観光連盟提供）



1602（慶長7）年、唐津城築城にあたり、寺沢は、満島と陸続きであった部分を開削によって切り離し、**松浦川**の河口を現在のように東側に移動させる大工事を行います。それによって唐津城の防備力を高め、舟運が便利になり、城下町の基礎を築きました。

松浦川の整備とならんで、寺沢が力を入れたのが、新田の開発でした。松浦川に堤防を築き鬼塚新田や鏡大渡新田（かがみおおどしんでん）を造成したり有浦新田（現在の玄海町）などを開発したりしました。

さらに、新田開発の一環として、防風・防砂とともに塩害を防ぐために、海岸線にクロマツを植林し、玉島川河口から松浦川河口に広がる「**虹の松原**（にじのまつばら）」をつくりました。「虹の松原」は唐津藩の保護のもと、燃料としてのマツ葉の採取を厳しく制限するのはもちろんのこと、伐採は死罪とする「禁伐の掟（きんばつのおきて）」が定められていました。その後も「虹の松原」は、唐津藩の藩主が代わっても手厚く管理され、近年になっても玄海国定公園の一部として、幅約500m、長さ約4.5kmにわたって約100万本のクロマツ林が続き、美しい景観が保たれています。

学校の取組
【松露プロジェクト】
■佐賀県立唐津南高等学校

虹の松原の「白砂青松」と「松露」を復活させようと考え、保全活動を行っています。

調べて書いてみよう！
石井樋の仕組みについて調べて書いてみましょう。

読んでみよう！

『成富兵庫茂安　佐賀藩の初期を支えた男　戦場に、外交に、そして治水』
佐賀新聞社刊

出かけてみよう！

さが水ものがたり館（佐賀市大和町大字尼寺 3247）
成富兵庫茂安の業績を知ることができます。施設内にある石井樋公園では、象の鼻や天狗の鼻を見ることができます。
TEL 0952-62-1277／**休館** 月曜日、年末年始／**開館** 9:30～17:00
（佐賀市観光協会提供）

検索してみよう！
佐賀治水　　唐津藩新田

第2章 No.06